

令和6年度（第63回）農林水産祭むらづくり部門受賞団体の概要

【農林水産大臣賞受賞団体（代表者）】

● のうじくみあいほうじんにしやまいしんかい 農事組合法人西山維進会 おかやまけんたかはししびつちゅうちょう〔岡山県高梁市備中町〕 のむら こういち（代表理事 野村 幸市）

（1）むらづくりの背景・動機

備中町西山地区は、標高500mの吉備高原西端に位置し、広島県と隣接している。西山地区は夏秋トマトやピオーネ（ぶどう）を中心に生産してきたが、生産者の高齢化、担い手不足や耕作放棄地の増加、若者の流出など人口減少に伴い地域コミュニティの存続も危ぶまれていた。これらの問題解決に向け、平成25年、西山地区コミュニティ協議会会長など地元有志16人により、耕作放棄地の解消による美しい里山の維持、若い担い手の確保などを目的に、人・農地プランの推進組織として任意組合「西山維進会」が発足した。その後、事業の拡大に伴い、平成29年に農事組合法人として法人化した。

（2）むらづくりの内容

① 生産面における取組状況

組合員はトマト、ぶどうの専業農家が主体のため、少ない労働力で広範囲の耕作放棄地が解消できる和牛放牧事業に着目し、平成26年に黒毛和牛2頭をレンタルして試験放牧を開始した。その後、和牛繁殖雌牛の増頭と子牛販売に取り組み、農地を集積して経営拡大していて、水田15haを含む20haの農地を集積し、28頭の繁殖雌牛等の和牛放牧を行っている。

国際的な飼料価格の高騰等により、和牛放牧事業の継続が危ぶまれることを想定し、WCS用稲の作付けにチャレンジしている。

トマト、ぶどうの作業受託に取り組みしており、高齢農家の支援策として、労働力の補完とともに、各農家相互の経営継続の支えとなっている。

中山間地域等直接支払交付金の事業を活用した農地の保全を行っている。

② 生活改善の取組状況

和牛放牧により地域の耕作放棄地が減少し、里山との緩衝帯ができたことで、集落周辺で発生していたイノシシ等による農作物被害の未然防止に繋がっている。

県内外からの就農希望者を研修生として積極的に受け入れ、栽培技術を指導するとともに、地域住民との交流をすすめて、早く地域に溶け込めるよう支援している。

地区内の農地や住宅の確保に向けて支援し、移住や就農に向けた環境整備を行っている。令和5年には、1年半の農業研修を終えた3人が、新たに合同会社を設立し、同地区でトマト経営を開始した。